

うつのみやの自然

宇都宮市自然環境基礎調査



長岡湿地の^{やと}谷戸



オオタカ



鬼怒川れき河原



カワラノギク



1 自然環境基礎調査の目的

宇都宮市には、豊かな自然環境が残されており、たくさんの動物や植物が生息・生育しています。市では、そのような自然の現状を調べるため、自然環境基礎調査を行っています。

この調査は、過去に2回行っていきます。1回目を平成2～3年に、2回目は平成11～12年に実施しました。3回目となる今回の調査は、平成21～22年にかけて次の3つのことを目的として行いました。

- ・ 合併した町（旧上河内町，旧河内町）を含め、自然環境の調査を行い、現状を把握すること。
- ・ 10年前の調査と比較して環境の変化を見ること。
- ・ 調査結果をもとに、今後の自然環境の保全に役立てること。



2 調査した生き物と調査内容

調査は、植物、ほ乳類、鳥類、は虫類・両生類、魚類、昆虫類、底生生物や、^{しよくせい}植生^{※1}などの調査を行いました。

前回と今回の結果を比べたところ、植物の重要種^{※2}の生育環境については、大きな変化は見られませんでした。

動物の重要種については、戸祭山のトウキョウサンショウウオ、鶴田沼周辺のモートンイトトンボなど多くの種について生息環境が維持されているものの、鬼怒川河川敷において、^{がいらいしゅ}外来種^{※3}であるシナダレスズメガヤの分布範囲が広がったことや人による採集などで、シルビアシジミやミヤマシジミの生息が^{おびや}脅かされていることが分かりました。

今回、初めて調査した上河内地域と河内地域では、豊かな自然環境が維持されていることが分かりました。

また、カラタチバナなど暖かい場所に生育する植物やツマグロヒョウモンなど南方系のチョウ類が10年前より多くの地点で確認されており、地球温暖化が関係している可能性があります。

植 物

- 1287 種を確認しました。
- 重要種は、カワラノギク、キンランなど 84 種を確認しました。



魚 類

- 29 種を確認しました。
- 重要種は、ホトケドジョウ、メダカなど 10 種を確認しました。



ほ乳類

- 19 種を確認しました。
- 重要種は、カヤネズミ、コウモリ類など 3 種を確認しました。



昆虫類

- 1603 種を確認しました。
- 重要種は、シルビアシジミ、モートンイトトンボなど 45 種を確認しました。



鳥 類

- 95 種を確認しました。
- 重要種は、オオタカ、コアジサシなど 14 種を確認しました。



底生生物

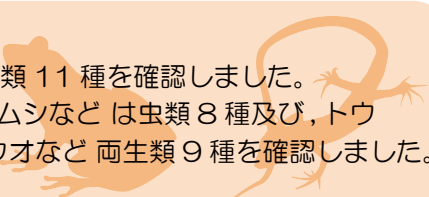
底生生物とは、川や湖の底や、泥の中で生活する生き物のことです。トンボやカゲロウの幼虫（昆虫）、貝、エビ、カニなど、いろいろな生き物が含まれます。

- 309 種を確認しました。
- 重要種は、モノアラガイ、ヨコハマシジラガイなど 15 種を確認しました。



は虫類・両生類

- は虫類 10 種、両生類 11 種を確認しました。
- 重要種は、ニホンマムシなどは虫類 8 種及び、トウキョウサンショウウオなど 両生類 9 種を確認しました。

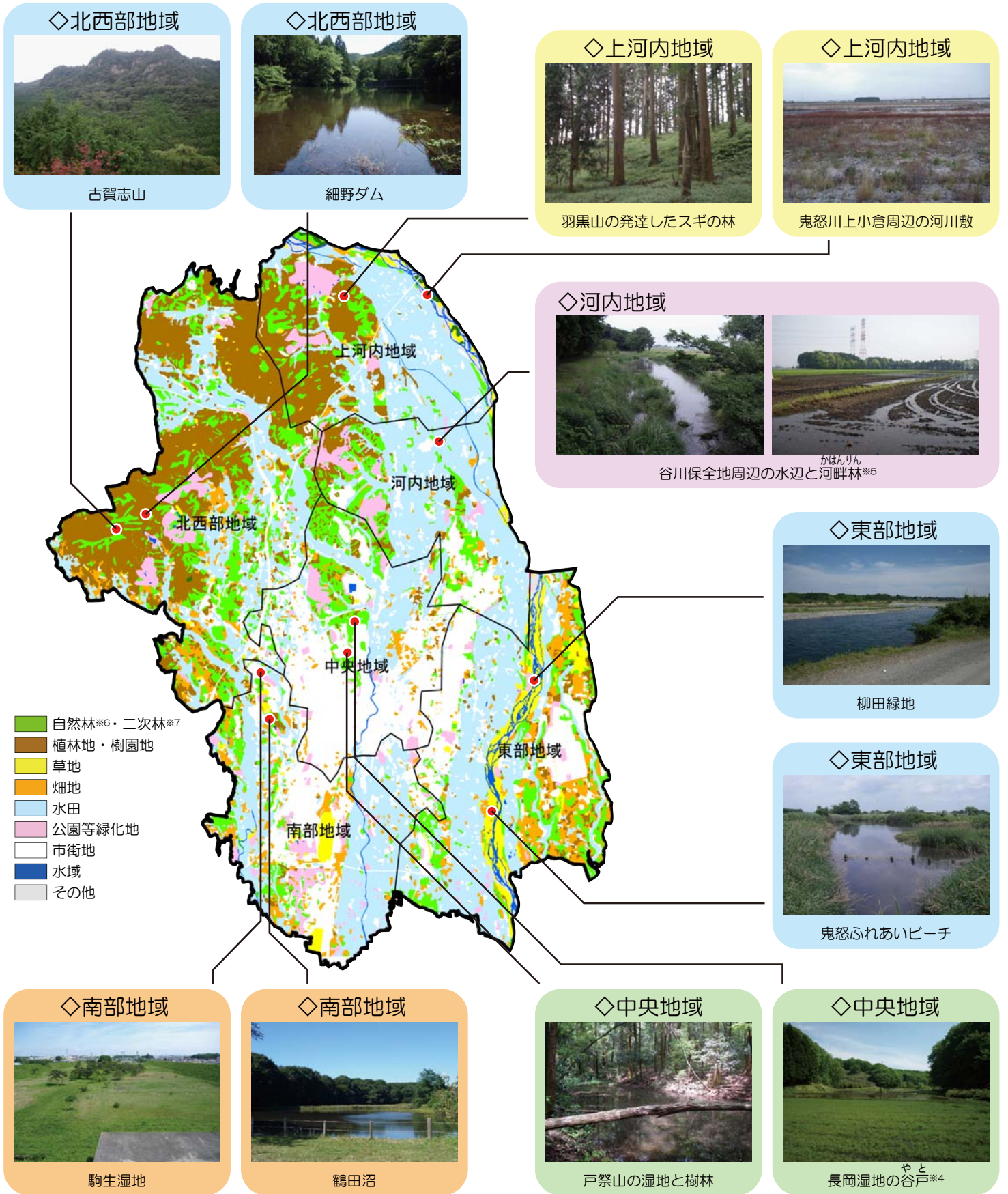


用語の説明 ※1 植生 …… 植物が生息しているまとまり
 ※2 重要種 …… 今回は、次にあてはまる種を対象とした。「文化財保護法(1950, 法律 214)」により定められた天然記念物・特別天然記念物、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(1992, 法律 75)」における国内希少野生動植物種、「環境省レッドリスト(2007, 環境庁)」の掲載種、「レッドデータブックとちぎ(2005, 栃木県)」の掲載種
 ※3 外来種 …… もともと生息していなかった地域に、人の手により持ちこまれた動植物

3 宇都宮市の様子



宇都宮市には、北西部地域や上河内地域に広がる山地、東部地域、上河内地域、河内地域を流れる鬼怒川やその周辺に広がる水田地帯など、さまざまな環境が見られます。



用語の説明

※4 谷戸 やと
 台地や丘陵地が湧水等の侵食によって複雑に刻み込まれた地形

※5 河畔林 かほんりん
 河川周辺において、洪水時、あふれた水におおわれる土地に生育する林

※6 自然林 人の影響を受けていない樹林
 ※7 二次林 人の手によって維持されてきた樹林



4 見つかった重要な生き物

人があまり立ち入らない奥深い山地のある北西部地域には、上流域にすむ魚や広い樹林にすむ生き物が見られました。

市街地や水田の広がる中央地域、南部地域には、市街地の樹林や湿地、ため池などにすむ生き物が見られました。

鬼怒川が流れる東部地域や上河内地域、河内地域では、河川にすむ魚類や底生生物、周辺の水田や水辺を好む生き物が見られました。

樹林や水田の広がる上河内地域、河内地域には、里地里山※1にすむカエルやトンボなどの生き物が見られました。

このように、人の手があまり入っていない場所や人の手の入った里地里山など、それぞれの地域の特徴に見合った重要な生き物が見られました。



用語の説明 ※1 里地里山…… 都市と人の影響を受けていない自然との中間的な地域のこと。集落と、それをとりまく二次林、それらと混在する農地、ため池、草原など、人の働きかけによって形づくられる

◇北西部地域

地域の北から北西部には山地が広がっており、古賀志山や細野ダム周辺にはスギ・ヒノキの植林やコナラ林、アカマツ林が見られ、また、市街地の中には樹林が残っており、河川沿いには水田や草地が見られる。

重要種としては、山奥や谷を流れる川の生き物が多く見られた。



ヒカゲツツジ



ヤシュウハナゼキショウ



エビネ



アズマヒキガエル



カジカ



マイコアカネ

◇中央地域

地域の北部の丘陵地には樹林が残っており、北東部の低地には水田が広がっている。南部にある台地と低地は市街地になっている。

重要種としては、水田や湿地の生き物が多く見られた。



ムカゴサイジン



キンラン



オオタカ



ニホンカナヘビ



トウキョウサンショウウオ (卵のう)



ホトケドジョウ

◇南部地域

地域の台地にある市街地と、東側に広がる田川沿いの水田が広い面積を占める。市街地周辺の雑木林、田川沿いの草地の他に、湿地やため池が見られる。

重要種としては、樹林や水辺、湿地の生き物が多く見られた。



ヒメナエ



アギナシ



サシバ



オオムラサキ



モートナイトトンボ



ヨコハマシジラガイ

◇東部地域

鬼怒川の河川敷にある樹林や草地と、川の周辺に広がる水田が広い面積を占める。東部の真岡西台地樹林と農地が入り混じった環境である。

重要種としては、水辺や湿地の生き物が多く、樹林と農地が入り混じった場所では、両方の環境を必要とする生き物が多く見られた。



タコノアシ



コアシサシ



ツチガエル



カジカガエル



メダカ



ミヤマシジミ

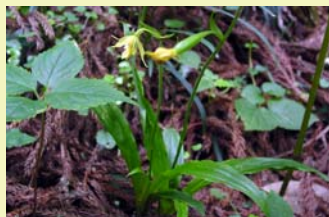
◇上河内地域

地域西部の羽黒山の樹林と地域東部の宇都宮東台地、鬼怒川低地の水田が広い面積を占める。羽黒山山ろくには、谷戸や湿地が見られ、また、上小倉地域や下小倉地域の鬼怒川河川敷には、れき河原が見られる。

重要種としては、いろいろな環境があることを反映して、樹林や河川敷、湿地の生き物が多く見られた。



エンコウソウ



キンセイラン



カワラノギク



ニホンマムシ



シュレーゲルアオガエル



シルビアシジミ

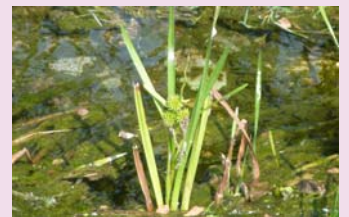
◇河内地域

宇都宮東台地及び鬼怒川低地に水田が広がり、斜面には樹林が、谷には水田が残っている。また、市街地にも樹林が残っている。

重要種としては、広く水田があることから、水辺の生き物が多く見られた。



ミスズラ



ナガエミクリ



フクロウ



シマヘビ



トウキョウダルマガエル



スナヤツメ

5 みんなで大切にしたい生き物のすみか



宇都宮市には、山地の樹林や水辺、湿地など自然の豊かな場所がたくさん残っており、これらの場所では、他では見られない重要な動物や植物が生息・生育しています。

今回の調査では、このような自然の残っている特に重要な場所として、右図の赤色で示した地点があげられました。この中には、市民の皆さんによる環境保全活動や維持管理が行われている場所もあります。

また、この他にも優れた環境が残っている場所もあります。



古賀志山

自然性の高い※1山地特有の環境。険しい山地や、山地にある湿地特有の重要種が生息・生育している。



細野ダム周辺



多気山

人里近くの高自然性の高い環境。市内で唯一の照葉樹林※2が存在している。



大谷観音(姿川)周辺

人里近い大谷石のがけや洞くつのある環境。重要な植物が生育している。



長岡湿地周辺

里山・湿地環境を有する市街地の中の丘陵地※3。谷戸特有の重要な動植物が生息・生育している。



戸祭山

市街地に残された樹林と湿地。湿地特有の重要な動植物が生息・生育している。



駒生湿地

市街地の中でも人の影響の少ない湿地。県内でも希少な湿生植物が生育している。



鶴田沼周辺

市街地の中で、良好な環境が維持されている古いため池。湿地特有の動植物が見られる。



鬼怒ふれあいビーチ周辺

ワンド※4・湿地が残る市域においての鬼怒川下流区間。魚類の生息や繁殖の場となっている。



羽黒山

社寺林として維持されたスギの老齢林が残っている。



羽黒山山ろくの谷戸周辺

羽黒山山ろくの良好な谷戸。谷戸特有の希少な動植物が見られる。



鬼怒川上小倉周辺の河川敷

鬼怒川中流域の良好な河川環境が残っている区間。河原や中洲※5、ワンドなどが広がり、河川からその周辺までつながっている良好な自然を形成。貴重な動植物も見られる日本有数の良好な河原※6である。



鬼怒川下小倉周辺の河川敷

川岸に石や土で、川の流れから区切られた入江のようなよどみ



谷川保全地周辺

人の手により良好な農村生態系が維持・創出された区域。水田特有の動植物が見られる。

用語の説明 ※1 自然性の高い… 人の影響が少ないこと
 ※2 照葉樹林… カシ類、シイ類、クスノキ科、ツバキ科など常緑の広葉樹が大きく占める樹林
 ※3 丘陵地… 小さな山や丘の続く地形

※4 ワンド… 川岸に石や土で、川の流れから区切られた入江のようなよどみ
 ※5 中洲… 川の中に上流から流された土砂などがたまり、陸地となっている地形
 ※6 れき河原… 小石でおおわれた河原



宇都宮市の自然を守るための問題点を、国が示している生物多様性^{※7}の3つの危機と、地球温暖化による影響に基づいてまとめました。

私たちの暮らしが自然をこわす(第1の危機)

人の暮らしを支えるために、森や林だった場所を農地や市街地に変えたり、生き物を採取したりすることによって、生き物の種類や数が減ってしまうということが世界中で起こっています。

宇都宮市では、10年前の調査と比べ、重要種の数に大きな変化が見られないことから、まだ豊かな自然環境が維持されているといえます。大規模な開発や生き物の採取は、人の暮らしを豊かにする一方で、生き物の数を減少させたり、絶滅させたりする可能性があります。

自然と人との関わりがうすれた(第2の危機)

昔の人々は、里山から薪^{まき}を採り、田んぼで稲を育て、川で魚を採るなど自然とともに暮らしてきました。また、そのような営みの中で、他の生き物も一緒に生息・生育していました。しかし、里山や田んぼが使われなくなると、人々の暮らしとともに生息・生育していた生き物の生息環境が変化して、その場所にすみにくくなってしまいます。

宇都宮市でも、昔は手入れされていた里山や田んぼ、畑が荒れている場所があります。アカマツ林が雑木林に変わったり、使われなくなった田んぼや畑で低木がしげり^{やぶ}、藪になることで、昔はたくさんいたイモリやメダカ、ドジョウなどの数が減ってしまう可能性があります。

持ちこまれた生き物が影響を与える(第3の危機)

もともと他の場所にいた生き物が人の手によって持ち込まれ、昔からいた生き物を食べたり、生きる場所をうばったりしてしまうことが、最近目立つようになりました。

宇都宮市でも、ブラックバスやブルーギルが各地で見られるようになり、他の魚やその稚魚^{ちぎよ}、卵を食べてしまっている可能性があります。鬼怒川では、外来種であるシナダレスズメガヤ^{がいらいしゅ}が、もともと、れき河原に生育していたカワラノギクなどの生育する場所をうばってしまう可能性があります。

地球温暖化による影響

最近では地球温暖化の影響により、生き物の生息・生育する範囲の変化が見られることがあります。

宇都宮市でも、カラタチバナなど暖かい場所でしか見られなかった植物や、ツマグロヒョウモンなど南方系のチョウ類が確認されています。



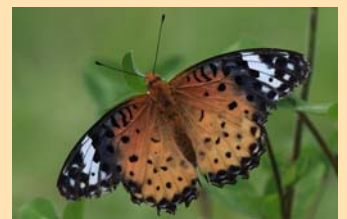
ブラックバス



シナダレスズメガヤ



カラタチバナ



ツマグロヒョウモン

用語の説明 ※7 生物多様性… たくさんの種類の生き物がお互いに支え合い競争するなど複雑に関わり合いながら、さまざまな環境に合わせてバランスを保って生きていること

「生物の多様性に関する条約」では、生物多様性をすべての生物の間に違いがあることと定義し、「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」という3つの多様性がある



いろいろな生き物が生息・生育できる豊かな自然環境は、私たちの生活に深いつながりがあります。また、緑豊かな山やきれいな川など生き物がたくさんいる場所は、生き物にとっても私たちにとっても心地よい場所です。

宇都宮市の豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくために、私たち一人ひとりにできる取組があります。

私たちにできること

1 自然にふれる

- 山や川で季節を感じるなど、自然に親しんでみましょう。
- 身近な生き物を観察してみましょう。
- 動物園や水族館、植物園、博物館に行ってみましょう。
- 生き物を育ててみましょう。

2 自然をまもる

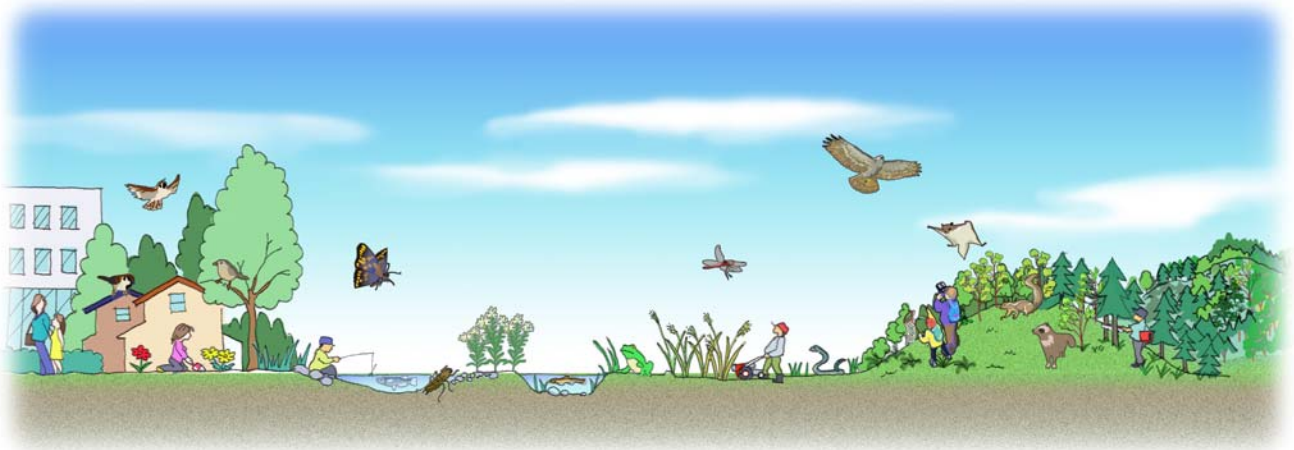
- 自然を汚さないようにしましょう。
 - ・むやみに草花をとらない。
 - ・樹木を傷つけない。岩に落書きをしない。
 - ・ごみを捨てない。持ち帰る。
- ペットはずっと大切に最後まで飼いましょう。
- ペットを飼う時は、飼育が禁止されている生き物でないか確認しましょう。
- 他の地域の動物等を放したりしないようにしましょう。
- 地域の自然保護活動に参加しましょう。

3 自然を伝える

- 家族と自然の恵みや大切さについて話し合ってみましょう。
- 自然を守る仲間を応援しましょう。

守れば
愉快だ
宇都宮

UTSUNOMIYA



宇都宮市自然環境基礎調査 うつのみやの自然

発行 宇都宮市 環境部 環境保全課

お問い合わせ先

電話 028-632-2406 FAX 028-635-4922

E-mail : u0711@city.utsunomiya.tochigi.jp

この冊子は、平成 21～22 年にかけて実施した宇都宮市自然環境基礎調査の結果を分かりやすくとりまとめたものです。以下の URL でもご覧になれます。

<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/kanky/shizenkankyo/002491.html>



宇都宮市では、地球上にあるすべてのものに、尊敬と感謝の気持ちをもち行動する「もったいない運動」を推進しています。